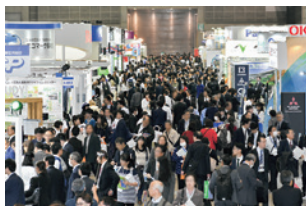


エコプロ2019

エコプロ2019[第21回]が2019年12月5日から7日の3日間、東京ビッグサイトで開催されます。今回は「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマに引き続きSDGs関連の情報発信の強化に取り組むとともに、再生可能な新素材の、セルロースナノファイバーに関する企画展や、海洋プラスチックごみ対策コーナーなど、新たな企画展開も図られています。

セミナー企画や体験型イベントも催されるので、機会がありましたら足を運んでみてください。



昨年開催、エコプロ2018の会場の様子

国内最大級の木質バイオマス発電所

木材調達に強みを持つ日本製紙は、木質専用で国内最大級のバイオマス発電所を作るとのことです。木材などの生物資源を燃やして電気をつくるバイオマス発電は、太陽光や風力発電などの他の再生エネルギーと比べ安定的に発電でき、一定の発電量を確保できる特長があります。ただ、燃料コストはなお高く、普及には燃料の安定調達がカギを握っています。

15年に八代工場(熊本県八代市)で稼働したバイオマス発電所は出力5千キロワットと小規模でしたが、印刷用紙などの洋紙事業から撤退する勇払事業所(北海道苫小牧市)で、23年1月に出力約7万5000キロワットのバイオマス発電所の運転を始めます。その後、岩国工場(山口県岩国市)でも10万キロワットを超える発電所を稼働する予定です。

国内には石炭を混ぜるバイオマス発電もありますが、木質燃料のみを使った発電所として国内最大級の規模となります。2つの発電所が稼働すれば、日本製紙の発電容量は2倍になります。

製紙業界は、工場に自家発電設備を備えているため、バイオマス発電はこれまで蓄積してきたノウハウを生かしやすく、自社工場に併設するため投資コストも抑えられます。また、輸入材を使うバイオマス発電所が多いなか、日本製紙は国産の木材を活用します。紙の原料でもある木材調達に強みがあり、国産チップを使ったバイオマス発電を増やすとのことです。

環境 ISO内部監査

12月に環境ISOの定期内部監査が行われます。環境ISOは環境を保護し、組織を取り巻くすべてのヒト・モノに対し、組織が与えている『環境影響』を明確にし、問題を解決していくためのシステムを作ることです。内部監査では分析や評価をすることで、改善へとつなげることができます。この機会に、環境ISOへの理解を深めましょう。

JS環境委員会短信

例年、インフルエンザは12月から3月にかけて流行しますが、今年はほぼ2~3週間ほど早く流行が始まりました。

インフルエンザ予防の基本は「手洗いとマスク」と、よく言われていますが、こまめに水分を取るようにすることも予防につながるということです。喉の粘膜を潤った状態にキープすることで、万が一、ウイルスが入り込んできても洗い流せるようです。何かと忙しい時期です。インフルエンザに限らず、体調を崩さぬよう気を付けてください。

本社 環境委員会メンバー 2019

委員長：下鳥治

委員：小井土昌弘 河野純一 庄司亜佐子

曲師里奈 森智史

